

設立15周年を迎えて

宗 像 恒 次

米国では1990年代になってがんの罹患率や死亡率をはじめ、いくつかの生活習慣病の減少傾向がみられるようになってきた。これは人々が自分のライフスタイルに配慮し、みずからの行動変容を図ってきた結果であろうし、また保健医療サービスに、イメージ療法・ストレスマネジメント・カウンセリング・運動などの行動保健医療や、栄養補助食品・鍼・アユルベータなどの代替医療が、これまでのバイオメディスンを補足して力を発揮している面が見逃せない。

一方、わが国では医療の現場ではいまだに対症療法に終始し、病気をつくる根本の生活習慣そのものを、効率的かつ効果的に変容を促す技術や人材が育っていない。また増大するストレス関連症を体系的に予防や治療できる制度をもっていない。今日ほど行動病を予防、治療するための行動科学教育や行動科学研究の充実、行動保健医療制度の確立が必要なときはないだろう。

本学会は、はや設立15周年を迎えようとしている。15周年記念の記事を書くために古い書類をながめていると、確かに感慨がひとしおである。もし故中川米造会長が生きていらしたら、また他の多くの設立関係者も15周年を迎えて共通して快い感慨をもってくださると思う。その当時の医療や看護の世界では行動科学や行動学という言葉すらあまり語られなかった時代であったから。しかし、その感慨にふけているわけにはいかない。新しい世代もリーダー層に加わり、わが国をリードするよう学会員の活動が切に望まれるところである。そのためには皆様一人一人がまわりをあまり恐れることなく、勇気をもって自分に満足のいく仕事をやり続けていただくことが肝腎だと思う。学会はそのような貴方

を支援する団体であることが必要だと思う。（日本保健医療行動科学会会長）

【役員体制のあゆみ】

第一期役員（1986年6月1日～1989年5月31日）

〈会長〉中川米造

〈副会長〉相磯富士雄，園田恭一

〈理事〉伊藤亜人，稲岡文昭，河野友信，仲尾唯治，中島紀恵子，長谷川浩，南裕子，宮地建夫，宗像恒次

〈海外アドバイザー〉Charles Leslie（米国，人類学），Byron J. Good（米国，人類学），Samuel W. Bloom（米国，社会学），John D. Stoeckle（米国，医学），Arthur Kleinman（米国，人類学），Nancy Engel（米国，看護学），Anne J. Davis（米国，看護学），Tamar Krulik（イスラエル，看護学），Frank A. Johnson（米国，医学），Margaret Lock（カナダ，人類学），David Mechanic（米国，社会学），Mirriam Hirschfeld（イスラエル，看護学），Patrcia Archbold（米国，看護学），William Holzmermer（米国，看護学），Virginia M. Ohlson（米国，看護学），N. Shinpuku（WHO，医学），George C. Stone（米国，心理学），Howard E. Freeman（米国，社会学）

第二期役員（1989年6月1日～1992年5月31日）

〈会長〉中川米造

〈副会長〉相磯富士雄，宗像恒次

〈理事〉伊藤亜人，稲岡文昭，河野友信，園田恭一，仲尾唯治，中島紀恵子，中村千賀子，長谷川浩，南裕子，宮地建夫

第三期役員（1992年6月1日～1995年5月31日）

〈会長〉中川米造

〈副会長〉相磯富士雄，宗像恒次

〈理事〉伊藤亜人，稲岡文昭，河野友信，園田恭一，高江洲義矩，仲尾唯治，中島紀恵子，中村千賀子，長谷川浩，羽山由美子，藤崎和彦，山崎久美子

第四期役員（1995年6月1日～1998年5月31日）

〈会長〉中川米造

〈副会長〉宗像恒次，羽山由美子

〈理事〉岡堂哲雄，河野友信，黒田裕子，島内節，諏訪茂樹，高江洲義矩，谷荘吉，谷口文章，仲尾唯治，中村千賀子，波平恵美子，長谷川浩，藤崎和彦，柳井勉

第五期役員（1998年6月1日～2001年5月31日）

〈会長〉宗像恒次

〈副会長〉河野友信，藤崎和彦

〈理事〉岡堂哲雄，河村誠，高江洲義矩，谷荘吉，谷口文章，仲尾唯治，中島紀恵子，中村千賀子，橋本佐由理，長谷川浩，羽山由美子，柳井勉，山崎久美子

【会則・規約制定と主要な事業のあゆみ】

- 1985年10月19日 設立準備会の発足および日本保健医療行動科学会設立趣意書の採択
1986年6月1日 日本保健医療行動科学会発足および会則の制定
1986年9月23日 東京支部研究会の発足（事務局長：宗像恒次）
1987年6月6日 近畿支部研究会の発足（事務局長：藤崎和彦）
1990年8月21日 日本学術会議行動科学部門への登録承認（番号0923）
1991年7月18日 北海道支部研究会の発足（事務局長：久村正也）
1992年4月26日 第1回保健医療行動科学の研究者のための統計学研修の開催
1992年6月1日 学会ロゴマークの決定
1994年6月25日 第1回英文抄録の書き方研修会の開催
1994年6月1日 創立10周年記念事業として『保健医療行動科学事典』編纂準備開始
1994年6月1日 日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞（中川賞）内規制定
1997年9月30日 中川米造会長永遠の眠りにつく
1998年6月21日 第1回日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞（中川賞）授与
1998年6月21日 日本保健医療行動科学会奨励研究員事業開始
1999年9月8日 『保健医療行動科学事典』発刊（メヂカルフレンド社）

【年報のテーマ】

- 1986年 Vol. 1 健康と病気の行動科学
1987年 Vol. 2 保健医療と行動科学
1988年 Vol. 3 クオリティ・オブ・ライフと保健医療
1989年 Vol. 4 健康問題とセルフケア/ソーシャルサポートネットワーク
1990年 Vol. 5 ヘルスプロモーションと行動科学
1991年 Vol. 6 「食」をめぐる保健行動
1992年 Vol. 7 保健医療とコミュニケーション戦略
1993年 Vol. 8 つくられた環境つくりかえる行動
1994年 Vol. 9 慢性の病いとエイズ—ノーマライゼーションの行動科学
1995年 Vol. 10 行動変容へのパフォーマンス
1996年 Vol. 11 自己決定の行動科学
1997年 Vol. 12 セルフヘルプの行動科学
1998年 Vol. 13 医療倫理と行動科学
1999年 Vol. 14 ターミナルケアの行動科学
2000年 Vol. 15 グリーフケアの行動科学

【学会大会の歴史】

- 1) 日本保健医療行動科学会国内大会のあゆみ
1985年10月19日 日本保健医療行動科学設立準備シンポジウム（ルークホール，東京）

テーマ「健康と病気をめぐる行動科学」

講演「日本保健医療行動科学会発足について」中川米造（大阪大学）

シンポジウム「健康と病気をめぐる行動科学」

1986年6月7～8日 第1回大会・総会（星陵会館，東京）

講演「伝統的治療行動と近代医学の接点」波平恵美子（九州芸術工科大学）

シンポジウム「日本人の強迫的性格と病気」「医療従事者・患者関係における心理と文化」

一般演題8題

1987年6月27～28日 第2回大会・総会（順天堂大学有山記念講堂，東京）

講演「日本の医療体系の病—これからの医療と医療人教育」植村研一（浜松医科大学）

シンポジウム「医療従事者の教育と行動科学」「人間関係障害の激増とソーシャルネットワーク」

一般演題8題

1988年6月24～25日 第3回大会・総会（大阪薬業年金会館，大阪）

講演「現代日本人の意識と行動—日本人の行動の予測要因」田中国夫（関西学院大学）

ワークショップ「日本の患者」，トークイン「ケアとは」

シンポジウム「セルフケア」

一般演題11題

1989年6月23日 健康行動科学公開セミナー（メヂカルフレンド社，東京）

レクチャー「保健医療の行動科学ABC」宗像恒次（国立精神・神経センター），河野友信（都立駒込病院）

体験学習「援助のためのコミュニケーション」中川米造（滋賀医科大学）

講演「健康心理学—新たな可能性」G.C.ストーン（UCSF）

1989年6月24～25日 第4回大会・総会（エーザイホール，東京）

講演「ヘルスプロモーションへの行動科学の貢献」G.C.ストーン（UCSF）

シンポジウム「ヘルスプロモーション—慢性疾患からの解放を求めて」

臨床ワークショップ「医療倫理—真実告知をめぐって」

一般演題10題

1990年6月23～24日 第5回大会・総会（日本社会事業大学，東京）

大会長：相磯富士雄（大妻女子大学）

講演「国際化の中での日本の食糧問題」中村靖彦（NHK 解説委員）

シンポジウム「セルフケアとしての食行動」

教育講演「食べるということ」木村修一（東北大学）

一般演題22題

1991年6月22～23日 第6回大会・総会（京都大学，京都）

大会長：中川米造（滋賀医科大学）

テーマ「保健医療におけるコミュニケーション・ストラテジー」

講演「読みの手がかりー日常的相互行動の事例から」谷 泰（京都大学）

シンポジウム「健康教育とマスメディア」「患者の視点からコーディネーションを考える」

ミニシンポジウム「医療者の世界、患者の世界ーその出会いの場で何が起ころのか」
一般演題21題

1992年6月27～28日 第7回大会・総会（東京大学，東京）

大会長：園田恭一（東京大学）

テーマ「つくられた環境，つくりかえる行動ーより豊かな生存をめざして」

講演「健康増進と環境ーWHOの動向を中心として」園田恭一（東京大学）

シンポジウム「医療環境とオーダー」「環境問題と行動変容」

一般演題30題

1993年6月26～27日 第8回大会・総会（東京医科歯科大学，東京）

大会長：河野友信（ストレス科学研究所）

テーマ「慢性の病いをめぐる行動科学」

講演「慢性症の保健行動」河野友信（ストレス科学研究所）

特別講演「エイズ患者の看護」Diane Jones（サンフランシスコ総合病院）

シンポジウム「慢性の病いをめぐる行動科学」

ラウンド・テーブル「エイズと人間行動」

一般演題30題

1994年6月25～26日 第9回大会・総会（大阪国際女子大学，大阪）

大会長：柳井 勉（大阪教育大学）

テーマ「パフォーマンスと保健行動ー健康教育と行動変容の科学」

講演「健康教育から見た保健行動」柳井 勉（大阪教育大学）

特別講演「動作とところ」成瀬悟策（前九州女子大学長）

シンポジウム「パフォーマンスと保健行動」

公演「癒しの芸術ーフィーリング・アーツ」北村義博（現代美術作家）・林絹代（相愛大学）

体験学習ワークショップ

一般演題31題

1995年6月17～18日 第10回大会・総会（大妻女子大学，東京）

大会長：宗像恒次（筑波大学）

テーマ「自己決定の行動科学」

講演「行動変容の理論と技法を学ぶ」宗像恒次（筑波大学）

特別講演「癒しの瞑想法ーエイズから生還した私」Niro Markoff Assistant（瞑想家）

体験学習ワークショップ，ビデオ事例討論会

一般演題35題

1996年6月15～16日 第11回大会・総会（かでの2.7, 札幌）

大会長：中島紀恵子（北海道医療大学）

テーマ「セルフヘルプの行動科学」

講演「セルフケアとセルフヘルプの統合」中島紀恵子（北海道医療大学）

教育講演「高齢者援助の行動科学」杉山善朗（前札幌医科大学）

体験学習ワークショップ

一般演題30題

1997年6月21～22日 第12回大会・総会（甲南大学, 神戸）

大会長：谷口文章（甲南大学）

テーマ「医療倫理と行動科学」

講演「医療倫理と意思決定」谷口文章（甲南大学）

特別講演「日本人の行動特性」濱口恵俊（滋賀県立大学）

シンポジウム「生命倫理と行動科学－自己決定のプロセス」

体験学習ワークショップ

一般演題45題

1998年6月20～21日 第13回大会・総会（東京医科歯科大学, 東京）

大会長：谷 荘吉（小松病院）

テーマ「ターミナルケアの行動科学」

講演「ターミナルケアにおける行動科学の役割」谷 荘吉（小松病院）

特別講演「ターミナルケアにおける患者行動への対応」日野原重明（聖路加国際病院）

特別セッション「故中川先生をしのぶ」

シンポジウム「ターミナルケアの行動科学」

体験学習ワークショップ

一般演題31題

1999年6月19～20日 第14回大会・総会（東京女子医科大学, 東京）

大会長：長谷川 浩（東海大学）

テーマ「喪失と悲嘆の行動科学」

講演「悲嘆援助にかかわる諸問題」長谷川 浩（東海大学）

特別講演「悲しみの人間学－ホスピスでの経験から」柏木哲夫（大阪大学）

シンポジウム「喪失と悲嘆の行動科学」

体験学習ワークショップ

一般演題33題

2000年6月17～18日 第15回大会・総会（大阪教育大学柏原キャンパス, 大阪）

大会長：上野 勲（大阪教育大学）

講演「すこやかな生の行動科学－suffering と well-being を考える」上野 勲（大阪教育大学）

特別講演「弱みを強みに、利益のないところに利益を求めて－へてるの家の実践か

ら」向谷地生良・川村敏明（浦河日赤病院）

シンポジウム「すこやかな生の行動科学」

体験学習ワークショップ

一般演題33題

2) 国際保健医療行動科学会議のあゆみ **The History of International Conference of Health Behavioral Science**

1988年8月11～13日 第1回大会（Pacific Beach Hotel, Honolulu, Hawaii）

大会委員長：Hessel H. Flitter（Hawaii University）

テーマ「ヘルスケアにおける伝統と現代性」“A Transcultural Discussion”

Keynote address “Health Care and Ethnicity” Yonezo Nakagawa

Keynote address “Life Style and Health” Tsunetsugu Munakata

Keynote address “Alternative Medicine and Tradition” Thomas W. Maretzki

1991年9月27～29日 第2回大会（上智大学，東京）

大会委員長：長谷川 浩（東京女子医科大学看護短期大学）

テーマ「21世紀のケアシステムを提言する」“The Health Care Systems, How Should It Be in 21st Century?”

Keynote address “Feasibility of Paradigm - Health” Yonezo Nakagawa
（President of JAHBS）

Special address “Terminal Care” Alfons Deeken（Sophia University）

Special address “Strategies for Health Promotion” David Mechanic（Rutgers University）

1996年9月27～29日 第3回大会（上智大学，東京）

大会委員長：宗像恒次（筑波大学）

テーマ「危機と行動-成長と連帯」“Crisis Behavior toward Growth & Solidarity”

Keynote address “Crisis Behavior toward Growth & Solidarity” Yonezo Nakagawa
（President of JAHBS）

Keynote address “International Epidemiologic & Sociologic Research on Substance Abuse” Rumi Kato Price（Washington Univ. School of Medicine）

Keynote address “International Trends of Health Sociology” W.C.Cockersham
（Univ. of Alabama at Birmingham）

Symposium “AIDS : A Global Crisis & Solidarity”

Symposium “Growth and Solidarity in Crisis”

Special clinical seminar “The Image of Healing and Meditation” M.L.Rosman

Special clinical seminar “Cognitive Behavior Therapy” V.C.Gordon